

# 飯伊 産業経済動向

No.478 2019/1  
(31. 2. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,690	枚	22.8	%	△	5.2 %
	金額	5,445,545	千円	23.5	%		3.7 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 8 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 2,534 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)(12月)	県内	3	件	(前月 9 件)		(前年同月 6 件)	
	飯伊	0	件	(前月 3 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(12月)		44	戸	△	53.7 %	△	8.3 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(12月)		1.65	倍	(前月 1.54 倍)		(前年同月 1.69 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,888	台	△	3.7 %	△	0.8 %
	中古車	457	台	△	21.7 %		8.3 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (12月)	新車	3,842	台	△	10.9 %		6.8 %
	中古車	818	台	△	3.2 %	△	7.5 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	104,865	台	△	5.9 %		0.7 %
	出	104,742	台	△	9.3 %		2.1 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	69,375	台	△	9.9 %	△	1.3 %
	出	63,884	台	△	15.6 %	△	0.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	12,402	台	△	0.6 %	△	5.5 %
	出	12,658	台	△	1.0 %	△	5.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	34,198	台	△	6.4 %	△	0.9 %
	出	32,779	台	△	11.2 %		0.3 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		126	件	△	16.0 %	△	6.0 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		8	件	(前月 16 件)		(前年同月 3 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,728	人	△	6.0 %		4.6 %
	飯田～名古屋	17,858	人	△	1.7 %		2.0 %
	飯田～長野	8,436	人		0.1 %		0.8 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	21,047	人	△	9.0 %		— %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,012	人	△	14.3 %		7.0 %
	右回り	2,873	人	△	17.2 %		0.5 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性油墨インキ  
[リチウムラミネーション] を使用しました。

再生紙を  
使用しています

# 概況

## 製造業

1月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス39.3で、前月から4.7ポイント低下。翌月予測はマイナス33.3で、前月から12.9ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の受注の前月比は、横ばい～やや増加。一部に前年比はやや減少との声。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比やや減少～概ね横ばい、景況感も悪化している。産業機器や医療機器向け部品の受注、販売は、前月比減少～横ばい。景況感も悪化した業者が多い。建築用金属製品の売上は、「稼働日数の関係で前月比は減少したが、ほぼ例年並み」も、受注が増加していることもあり景況感は良好という。自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばい。総じて景況感に動きは見られない。一部に先行き受注の減少を見込む声も。光学機器部品の販売は、前月比横ばい、前年比はやや減少との声。景況感が悪化した業者も見られた。小型電磁機器の販売は、前月比やや減少～横ばい。FA関連モーターの受注は、前月比、前年比とも概ね横ばいも、「産業機械向けが減少で推移」など景況感は悪化との声が寄せられた。電気、電子製品の生産は、前月比概ね横ばい、景況感も動きはないとの声。

## 地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや減少～横ばい。一部に前年比は若干減少との声。「11月後半から繁忙が続いている。県外向けも忙しい」「消費者のデフレ指向は変わらない」などの声が聞かれ、総じて景況感に変化は見られない。水引製品の販売は、「新年を迎え商売は閑散としている」など時期的なこともあり、前月比減少～やや減少。前年比横ばい～増加。漬物の販売は、前月比減少との声。「暖冬による野菜価格の低下で漬物の消費は低迷している感」などの声が寄せられた。

## 建設業

1月の建設業の景況DIはマイナス15.4で、前月から7.7ポイント低下。翌月予測DIもマイナス7.1で、前月から7.1ポイント低下している。

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、2月15日調査時点で約10.2億円。

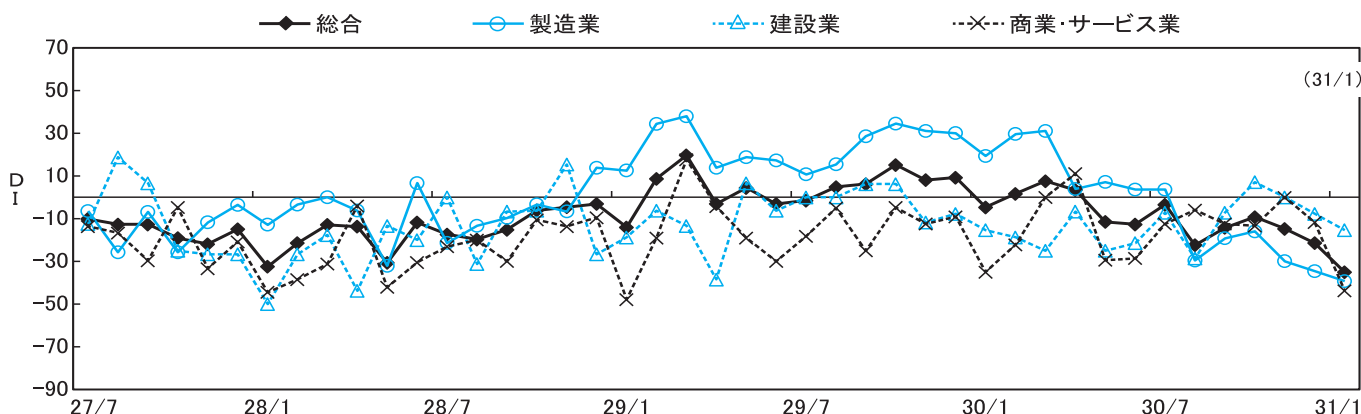
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばいとの声が多い中、減少したとする業者も見られた一方で、やや増加したとする業者も少なくない。当月、防災、減災工事や補正予算に言及する声が多く、「災害の箇所も規模も大きく発注されることになりそうでありありがたい」「この地域に大型補正もありそうで、地域全体としては一息つけることを期待している」などの声が聞かれた。

当地区の12月の住宅着工戸数は44戸。前月比54%減少、前年比も8%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「新築工事はポツポツあるが、雰囲気はあまり良くない」などの声が聞かれ、一部に景況感が悪化した業者も見られた。

## 商業・サービス業

1月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス43.8と、前月より32.0ポイント低下。翌月予測DIも、マイナス40.0で、前月より3.2ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、減少～やや減少。一部に前年比は増加との声。総じて景況感に動きは見られない。青果卸売市場の販売は、前月比、前年比とも減少、「野菜の価格がとても安い」との声。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少も、景況感に動きは感じられないという。電化製品の売上は、前月比減少も、前年比やや増加との声が寄せられた。家事用品の売上は、前月比減少も、前年比やや増加、景況感も良好との声。OA、事務機器の売上は、前月比減少も、前年比やや増加という。娯楽用品の売上は、「クリスマス商戦の翌月」で前月比減少。前年比は「トントン」との声。衣料の売上は、前月比、前年比とも減少との声が寄せられた。土産物の売上は、前月比やや減少も、景況感に動きは感じられないという。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比4%減少、前年比も1%減少。12月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比11%減少も、前年比は7%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比概ね横ばいも、前年比やや減少との声が寄せられた。市内料理店の売上は、前月比減少も、前年比増加との声。昼神温泉の売上は、前年比やや減少。タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声が聞かれた。

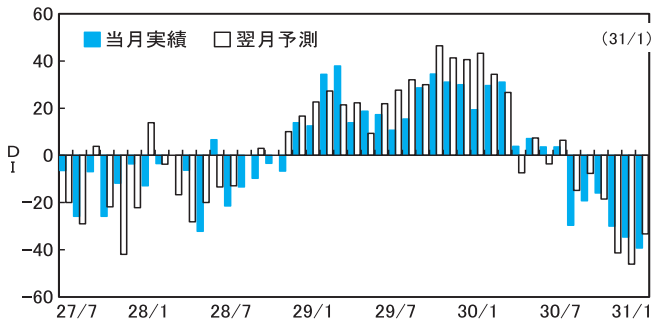
飯伊地区景況DI (本誌調査)



# 製造業

## 地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI (製造業)



当月実績DI -39.3 (前月 -34.6)

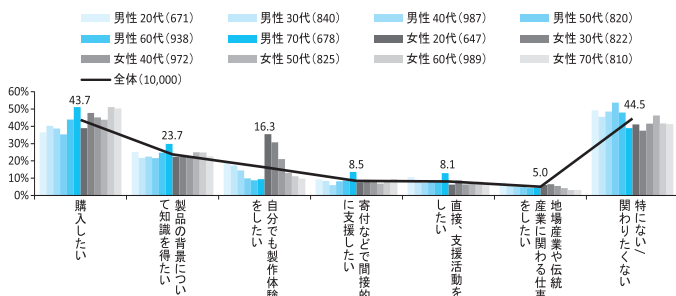
翌月予測DI -33.3 (前月 -46.2)

当月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス39.3で、前月から4.7ポイント低下。翌月予測はマイナス33.3で、前月から12.9ポイント上昇している。

(株)JTB総合研究所「地域の特産品(地場産業・伝統産業)への意識についての調査」抜粋

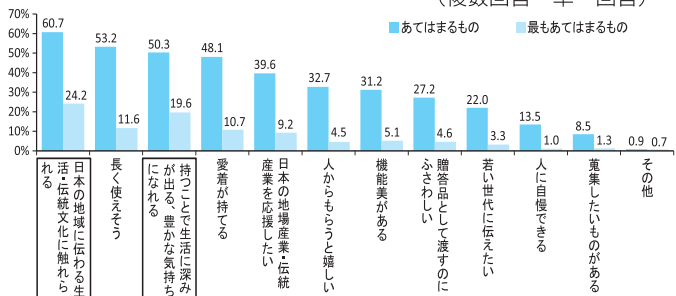
昨年3月、(株)JTB総合研究所が、一般消費者を対象に、地場産業、伝統産業にどのような意識を持っているか調査し、その結果を公表した。これによると44.5%が地場産業、伝統産業に「関わりたくない/特に関わりたくない」と答えている一方、55.5%は「購入したい」「製品について知識を得たい」「製作体験をしたい」など何らかの関わりを持ちたいとしており、「直接支援活動したい」「関わる仕事をしたい」など地場産業、伝統産業と強いつながりを持ちたい割合は、20、30歳代が高いという。また、20~40代の女性で「製作体験をしたい」との回答が多かった。

地場産業・伝統産業との関わり (複数回答)



図表にないが、地場産業、伝統産業と言えば「焼き物、陶器」「食器、ガラス製品」「刃物」などを購入したとする回答者が多いが、こうした地場産業、伝統産業に普段どのようなイメージを抱いているか聞いたところ、単一回答では「日本の地域に伝わる生活・伝統文化に触れられる」「持つことで生活に深みが出る、豊かな気持ちになれる」が上位となり、「地場産業品、

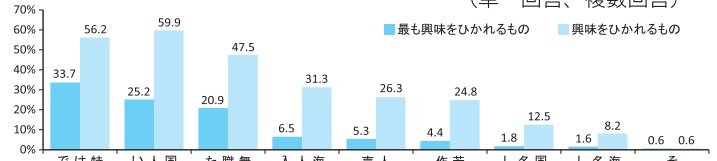
あなたにとって地場産業・伝統産業品とは (n=1595) (複数回答・単一回答)



伝統産業品の良さは、合理的、機能的な理由より、心の豊かさにつながると考えている人が多い」という。

こうした消費者が興味をひかれる製品としては、「特に人気や話題ではないが、自分自身で探してみたいもの」が最も多く、「国内で評価され、人気・話題となっているもの」と続くが、「20代男女では、周囲で話題になっていることが影響する傾向が強い」という。また、グラフにないが、全体としては伝統を維持しながらも時代感覚にあったデザインへのニーズが高い中であって、どちらかというとなりに伝統に忠実なデザインを好む傾向が見られ、特に20代男性でその傾向が強い結果となっていた。

興味をひかれる地場産業・伝統産業品 (n=1595) (単一回答、複数回答)



過去2~3年以内の地場産業・伝統産業品の購入者に、最も高額だった製品を購入した場所を聞いたところ、「生産地(生産者や生産地のウェブサイトを含む)」が半数を超え、中でも20~30代男性の生産地での購入割合が高くなっていった。また、この層では「生産地で歴史や技術的な背景を聞き、見学したい」と考える消費者が、女性や男性でもその他の年齢層に比べ高い傾向があるという。

JTBでは、これらの調査結果から「意外にも『地場産業・伝統産業品』に関心が高いのは20、30代男性」としている。

最も高額だった製品を購入した場所(性年齢別) (単一回答)

	生産地				都市部				ウェブサイト、通販					
	生産地の工場・工場直販店など	生産地の土産店、駅など	生産地で開催されたイベント	生産者や生産地のウェブサイト	都市部で販売している直販店	都市部の百貨店	都市部で開催される期間限定のイベント	おしゃやな雑貨店やセレクトショップ	音響品店	問屋街	ショッピングサイト	カタログ販売	その他	
全体(482)	24.8	13.4	10.4	4.5	3.3	1.7	12.5	7.4	5.7	1.8	1.0	9.4	1.9	2.2
男性20~30代(68)	31.4	10.7	12.2	12.2	3.5	2.0	7.0	8.5	3.9	1.5	3.0	2.3	0.0	1.8
男性40~50代(79)	21.1	13.4	13.5	1.4	6.1	1.7	7.5	7.7	1.7	4.7	0.0	18.1	1.3	1.9
男性60~70代(85)	19.9	13.2	10.1	6.1	4.6	0.0	14.9	4.6	4.6	3.3	1.7	2.0	8.2	6.9
女性20~30代(62)	27.7	11.5	6.9	7.5	2.2	3.8	9.3	10.0	17.2	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9
女性40~50代(88)	27.3	17.5	7.4	0.2	0.1	3.4	17.1	5.9	5.1	0.0	0.0	13.3	1.5	1.2
女性60~70代(101)	23.7	13.2	11.7	2.2	3.2	0.0	16.0	8.5	4.5	0.0	1.4	15.8	0.0	0.0

本調査では他にもオープンファクトリーやそれを核とした観光地づくりに関連する調査も行っている。ご興味のある方は(株)JTB総合研究所のホームページ(<https://www.tourism.jp/>)からご覧ください。

(出典、図表は全て(株)JTB総合研究所「地域の特産品(地場産業・伝統産業)への意識についての調査」)

## 機械加工製造業

電気、精密機械器具の受注の前月比は、横ばい~やや増加。一部に前年比はやや減少との声。「一部に前年比はやや減少との声。先行きは、弱含みとの見方もあるが、増加を見込む声は聞かれない。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で「中途採用について、応募に動きが出ている」との声が寄せられた。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比やや減少~概ね横ばい。景況感も悪化しており、「米中貿易摩擦の影響で、投資が後ろ倒し」「調整中だが、一部のメーカーからは継続して受注」「サーバー向け

鈍化」「FPD関連減少」などの声が聞かれた。先行きの見方も総じて弱含みで、「今年1年厳しい年になりそう」との声も。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「値下がり基調」との声。雇用面では、当面現状維持との声が多いが、先々特に「技術系」で増員を考慮する声が複数ある。設備面では積極的な声が少なくない。

**産業機器や医療機器向け部品**の受注、販売は、前月比減少～横ばい。景況感も悪化した業者が多い。「稼働日数が少なかったため販売が低下したが、短納期品には動きがある」「一部では動きがあるが、全体的には悪い」「受注が少し出てきたが、まだ厳しい」「正月明けに発注が出てきたが、一時的」「ロボット関連は良くない。その他はあまり変化がない」「大物よりも小物が多く、売上につながりにくい」「半導体部品等が悪く、動きが鈍化」「仕入先からも動きが悪いとの声」「昨年秋頃までとは打って変わって動きが悪い」「客先も生産調整中の感」「定時の仕事の確保が難しくなった」「世界的な流れの中、ものづくりの見通しが立たない。じっと我慢の時期」などの声が寄せられ、先行きも弱含みとの見方が多い。

原材料、資材価格では、「ステンレス板は少し上昇したが、アルミ材は多少下降」など、やや低下したとの声が複数。また「運賃値上げの影響は大きい」という。雇用面では、「不足。2月から増員」などの声もあるが、こうした声は一部に止まり、当面現状維持、ないし「1名退社し、そのまま」といった声が多い。設備面では積極的な声も複数あるが、現状維持との声が多い。そうした中、「設備やスタッフの移動、教育など、人口減少を見据え、生産性向上計画を検討中」との声が聞かれた。

**建築用金属製品**の売上は、「稼働日数の関係で前月比は減少したが、ほぼ例年並み」との声が寄せられた。「オリンピック等に係る民間投資の増加で首都圏が順調」など受注が増加していることもあり、景況感も好転しているという。「今後大阪圏も期待できる」「前月同様、全国的に同業は多忙」などの声が寄せられた。

**自動車向け部品**の販売は、前月比概ね横ばい。総じて景況感に動きは見られない。一部に先行き受注の減少を見込む声も。「消費増税の影響を懸念している。増税直前までは注文が比較的多いが、増税後の落ち込みを懸念している」との声が聞かれた。

**光学機器部品**の販売は、前月比横ばい、前年比はやや減少との声。景況感が悪化した業者も見られた。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

**小型電磁機器**の販売は、前月比やや減少～横ばい、総じて景況感に動きは見られない。一部に先行き弱含みとの声。当月原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。雇用面では現状維持との声が多い。設備面で積極的な声が聞かれた。

**FA関連モーター**の受注は、前月比、前年比とも概ね横ばいも、「産業機械向けが減少で推移している」など景況感悪化との声が寄せられた。「中国における米中貿易摩擦の影響が、国内販売で出始めており、今後の状況は悪化することが懸念される」など、依然世界的な経済状況が景況感に影響を与えている様子が窺える。

**電気、電子製品**の生産は、前月比概ね横ばい、景況感も動きはないとの声が寄せられた。「人員不足で案件に取り組みにくい」との声が聞かれた。

## 地場産業

**半生菓子、菓子原料等**の売上の前月比は、やや減少～横ばい。一部に、前年比は若干減少との声。「11月後半から繁忙が続いている。県外向けも忙しい」「消費者のデフレ指向は変わらない」「機械部品などでも在庫調整をしているとの声も聞く。景気はどうか」などの声が聞かれ、総じて景況感に変化は見られない。「段ボール、運賃」など原材料、資材価格が依然上昇しているとの声は多い。雇用面では現状維持との声が多いが、一部に「複数増員」との声も。設備面で積極

的な声が聞かれた。

**水引製品**の販売は、「新年を迎え商売は閑散としている」「1～3月は委託品の受入が多い時期。完了してみないと収益は分からない」「1月は休みが多い。少ないなりに納品でき、販売は例年通り」など時期的なこともあり前月比減少～やや減少、前年比横ばい～増加の様子。「水引、紙関係、資材や運賃の値上げの連絡が来ている」が、これに関し「業界全体に既存製品は値上げやむなしという雰囲気。これまで以上に新規需要の掘り起こしが重要」「値上げ予定。利益を確保するためにも、宣伝など使用頻度を上げる努力が必須」などの声が寄せられた。「業界全体飛躍しようと努力しているが、目下のところ手立てに乏しい感。少しずつでも手を打たなければ」との声が聞かれた。一部に、雇用面、設備面で積極的な声も。

**漬物**の販売は、前月比減少との声。「暖冬による野菜価格の低下で漬物の消費は低迷している感」「昨年は高値品薄、今年は豊作安価。天候の影響も含め、対応は難しい」などの声が寄せられた。

## その他製造業

**食品関連包材**の生産は、前月比減少との声が寄せられた。先行き、原材料、資材価格の上昇を見込んでいるという。

**印刷、出版関連**の売上は、前月比減少も、前年比増加との声が聞かれた。「印刷用紙」が値上がりしているが、この点に関し「動きが具体的に始まった。お客様の理解と協力がどこまで得られるか」「メーカーでは値上げのタイミングで生産調整も行っており、一部の紙が不足している。再生紙を中心に需要の多い紙厚の品で入荷が遅れるケースがある」などの報。一部に雇用面で積極的な声。設備面では積極的な声は聞かれなかった。

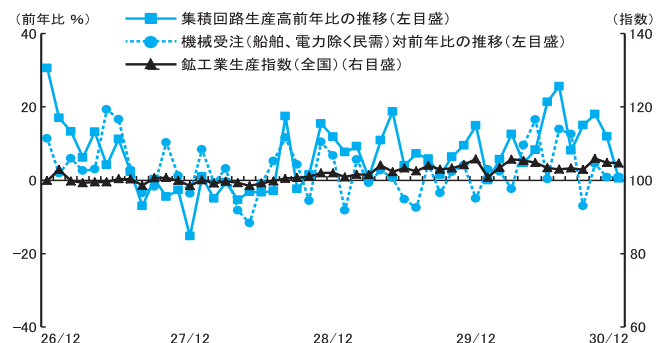
**衣料品**の販売は、前月比横ばい、前年比やや減少の様子。「冬物がサッパリ」「春夏物の仕掛りが遅い。5月の納品が心配」「百貨店の売上も悪い。国内景気、米國景気、中国景気など減速感を感じる」などの声が寄せられた。「4月の新制度の実施に伴い、現制度下の海外労働者の受入が滞っている。目下の生産にも支障がある状況」という。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

**住宅機器、オフィス家具、店舗用什器等家具**の生産は、前月比減少、前年比もやや減少しており、景況感も悪化との声が寄せられた。「従来、3月まではオーバーフロー気味で、4月くらいから減速するとの見方が多かったが、2月に入る頃から下方修正され始めた」という。原材料、資材価格が昨年より上昇しているとの声。雇用面、設備面で積極的な声は聞かれなかった。

### 【企業からのコメント】

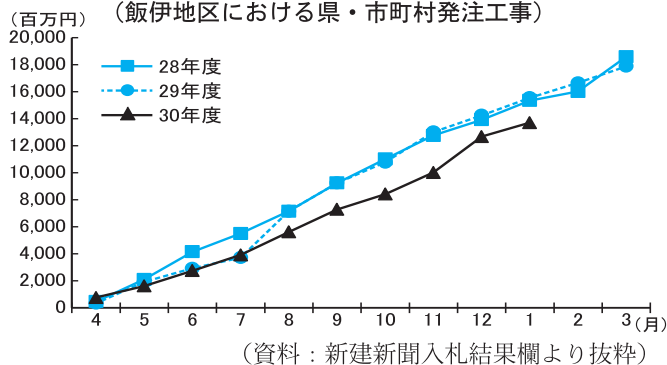
- ★春から夏にかけて相当厳しい状況が予想される。
- ★不良返品が多いが、過剰品質を求められている感。
- ★インターネット通販がうまくいった。今後の業容拡大を見込んでいる。

## 集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



## 入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -15.4 (前月 -7.7)

翌月予測DI -7.1 (前月 0.0)

## 官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約10.2億円となっている(2月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばいとの声が多い中、減少したとする業者も見られた一方で、やや増加したとする業者も少なくない。

当月、「県は防災、減災対策を中心に中、小型工事が発注になる」「災害関連の工事が、徐々にだが発注になってきた」など、防災、減災工事に触れる声が多く、「年度内は災害関連の受注がある」「災害の箇所も規模も大きく発注されることになりそうでありがたい」といった声が寄せられた。また、補正予算に言及する声も多く、「付くのが遅い感がある」とはいうものの、「この地域に大型補正もありそうで、地域全体としては一息つけることを期待している」などの声が聞かれた。

その他「国は三遠南信自動車道を中心に発注」といった事情もあり、「この時期に発注が進むと閑散期の4～6月に仕事ができるので良い傾向だと思う」「年度末までは忙しく、4月以降も、緩くなるとは言え、国、県や災害工事、民間工事で仕事が途切れることはないだろう」といった声が聞かれたが、一方、「手持が少ない業者も多く、競争は激化すると思われる」「4月以降の工事は受注競争になる」といった事情もあり、「次年度以降はなかなか見通せない」との声も聞かれた。

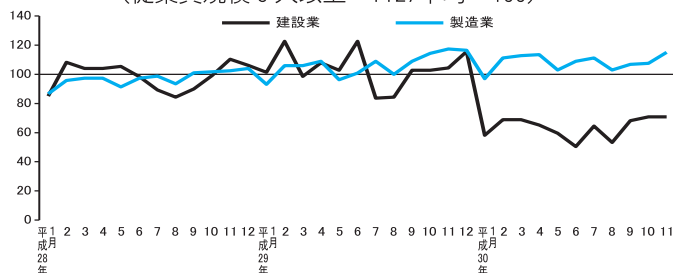
こうした中、「技術者、労務の不足で不落になることも少なくない。当社も受注できるか心配」など人員の不足を指摘する声は少なくなく、「少ない人員で適材適所を心掛けているが、不足してくるだろう」「施工職員を募集」「営業を特に必要としている」「下請、パートさんを頼んでいる」「農繁期までの臨時雇用で対応中」などの声が寄せられた。

## 長野県の建設業常用雇用者の所定外労働時間

労働時間の面では「プレミアムサタデー」や完全週休二日制の導入など、若い建設業従業者の増加や離職の防止なども視野に入れた、建設業労働者の労働環境を改善する努力が続いている。下のグラフは、毎月勤

## 長野県の所定外労働時間指数の推移

(従業員規模5人以上 H27平均=100)



(資料：長野県毎月勤労統計調査)

労統計調査によって、長野県全体の従業員5人以上の事業所における常用雇用者の、早出、残業、休日出勤といった所定外労働時間数の推移を、建設業と製造業と比較したもののだが、建設業常用雇用者の所定外労働時間は、平成30年に入ったあたりから明らかに減少している。

## 民需

当地区の12月の住宅着工戸数は44戸。前月比54%減少、前年比も8%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。一部に景況感が悪化した業者も見られた。「新築工事はポツポツあるが、雰囲気はあまり良くない」「大型工事が終わってくるので、後が厳しそう」「リフォーム工事のみ」「土木では半年先まで忙しいところもあると聞くが、建築は年度末までは仕事があるが、その後が不透明」「今はまだ仕事があるが、先は厳しそう」などの声。「相変わらず鉄骨が高い」「工事単価が上昇しているという。雇用面で「求人中」といった声の一方、「現状は適当だが、今後過剰感が出そう」との声もある。

## 建設資材

塗料等建設資材の売上は、前月比、前年比とも減少、「今年度は公的な物件で当社に関連するものが少ない。新年度に期待」との声が聞かれた。仕入価格が強含みという。

鋼材の売上は、前月比やや増加、前年比も増加との声。「1月にしては売上があった。基本的に大きな状況の変化はないが、顧客先もそれなりの仕事量を抱えている」「見通しが不透明なのは建設系も製造系も同様。新年は不確定要素もあり、先行きを注視」などの声が寄せられた。鋼材価格は「概ね横ばい」だが、「建設用高力ボルトの入手困難は深刻化。受注にも影響が出そう。品薄解消には夏頃までかかるのではないかとの見方も」との報が寄せられた。

生コンの売上は、前月比減少。前年比は、業者により増減分かれる。「主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信自動車道工事、バイパス工事、砂防・護岸工事、発電所・浄水場・工場・倉庫建設工事などに関わるもの」という。販売が減少したとする業者にあっても、「災害関連の土木工事が発注されており、年度末にかけて出荷が出ることを期待している」との声が聞かれた。「リニア関連工事の出荷量は前月より減少」という。

骨材の売上は、前月比減少、前年比は調査先により増減分かれる。「前月比増、前年比減」「積雪がなく天候が良かったことが前年より売上が良かった要因だろう。出水が少なく、天竜川龍江地区、小波ダム、阿南、遠山、平岡ダム下など原石採取が非常に順調だった」などの声。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

## 【企業からのコメント】

★今までリニア関連で出荷の多かった生コン業者も、とりあえず一段落では。

★製造業では受注が落ちたところもあると聞く。連休まで厳しいとの声も聞かれ、長引かないことを祈っている。

## 住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

1月 ○飯田建設事務所分

新築 8件 (前年 13件)

増築 2件 (前年 2件)

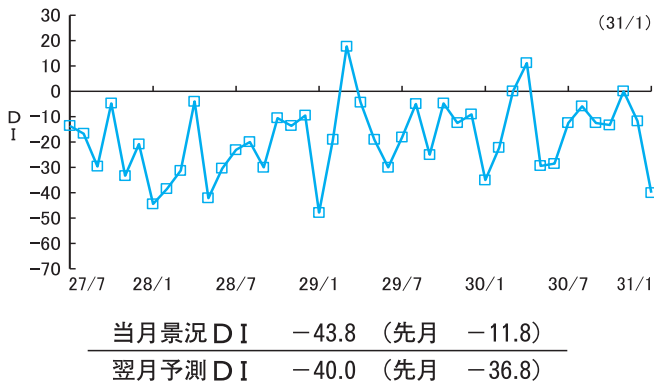
○飯田市役所分

新築 31件 (前年 14件)

増築 3件 (前年 4件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



## 商業

**食品**の売上の前月比は、減少～やや減少。一部に前年比は増加との声。総じて景況感に動きは見られない。仕入に関し、「野菜は相変わらず相場安。食品関連は、メーカーの値上げで仕入も上昇している」「肉類の相場がやや安定してきた。水産物は依然品不足気味」などの声が聞かれ、総じて仕入価格は概ね横ばい～やや上昇。一方販売価格に大きな動きはないとい、「値上を反映できない」との声が聞かれた。雇用面で、現状維持との声がある一方、「新卒者入社予定。中途採用も引き続き続ける」との声も。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

### 【青果卸売市場】

販売は前月比、前年比とも減少、「野菜の価格がとてまあ安い」との声。

野菜は、「昨年が品薄による高値だったこともあり、価格は前年より3割方安。特に大根、白菜、キャベツといった主力の安値が響き、入荷は17%増も、売上減となった。この傾向は当分続きそう」という。

果実は、「前進出荷の市田柿は、年明けの入荷も少なくはぼ終了。苺は前年並み。みかんは、昨年の不作を受け約2倍の入荷。全体では入荷23%増で、価格は干し柿が少なく21%安」という。

**製菓・製菓用品**の売上は、前月比やや減少も、景況感に動きは感じられないとの声。先行きは売上の増加を見込んでいるという。仕入価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。

**電化製品**の売上は、前月比減少も、前年比やや増加との声。「気温が高く、冬物商品が不調」「今後は学校関係の空調整備工事が見えていて先行きは明るい、工期が短いことや人手不足、資材不足等の不安材料も抱えている」などの声が寄せられた。

**家事用品**の売上は、前月比減少も、前年比やや増加、景況感も良好との声が寄せられた。「やはり暖冬のせいか防寒用品は売れない。また雪も少なく、雪かき等も全く売れない。年間で最も売上の多い12月を思うと、当月の売上減は、当然とはいえ残念な気もする」などの声が寄せられた。仕入に関し、「家庭紙で、メーカーによっては入荷が間に合わないところもある。また、価格もじりじり上昇している」という。「国はカード決済を推進しているが、経費の増加や設置費用の負担など、小売店は戸惑っている」との声が寄せられた。

**OA、事務機器**の売上は、前月比減少も、前年比やや増加との声。「年度末の需要期に向けた動きが開始した。この時期の仕込みが重要」「軽減税率対応レジの案件がいよいよ増えてきた様子」などの声が寄せられた。「物流コストの上昇、紙類の値上げなど仕入が増加している」という。

**娯楽用品**の売上は、「クリスマス商戦の翌月」で前月比減少。前年比は「トントン」という。

**衣料**の売上は、前月比、前年比とも減少との声。雇用面で余剰感があるという。設備面で積極的な声。

**土産物**の売上は、前月比やや減少も、景況感に動きは感じられないとの声。当月仕入価格がやや上昇したという。

松本自動車検査登録事務所管内の**自動車新規登録台数**は、新車は前月比4%減少、前年比も1%減少。中

古車は、前月比22%減少も、前年比は8%増加。平成30年12月の県全体の**軽自動車新規登録台数**は、新車は、前月比11%減少も、前年比は7%増加。中古車は、前月比3%減少、前年比も8%減少。

**自動車販売、整備**の売上は、前月比概ね横ばいも、前年比やや減少との声。「例年新卒者の商談が増えていく時期だが、今年は極端に少ない。若者のクルマ離れのせいなのか、県外への流出率が高いのか、いずれにしても年々減少傾向にある」「地域外業者の、例えば未使用車を目玉にした派手なチラシを目にする。地域のお客様の反応次第では進出してくることもあり得るだろう。自社の顧客はしっかり守らなければならないと思う」などの声が寄せられた。仕入に関し「輸出先のアジア、中東の引合が弱いのか、中古車相場が下落している感。低価格車が中古車全体の3分の1くらいあり、全体の台当たり単価が下がっている」という。

## サービス業

**市内料理店**の売上は、前月比減少も、前年比増加との声。「ありがたいことに前年より良かったが、正月の連休が過ぎたら静かになった。景気は良くなっていない気がする」「出前や小宴会が多かった」「家族連れが少なくなっている」などの声が寄せられた。仕入に関し「市場も動きが少なく鮮魚の値段が下がったが、運送費がやはり高い」という。

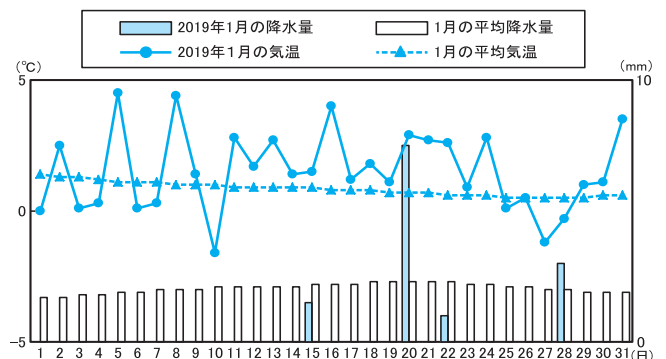
**昼神温泉**の売上は、前年比やや減少。「休館日を設定したこともあり、客数減少」「1月は例年良くないが、今年は今までになく良くない。降雪が少なく動きが良いが、スキー修学旅行はともかく、一般のスキー客が集まらない。ウィンターナイトツアー客の予約もさほどではなかった」「昼神全体休館する施設が目についた。いつになく静かな月だった」「客層が替り、土産物、飲料の動きが悪い」などの声が寄せられた。雇用面、設備面で、「人材不足の中やりくりしているが、働き方改革に関連あるのか、指導が厳しくなっている感」「設備の改修が必要。経費がかさむ」などの声が聞かれた。

**タクシー**の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「週末以外の夜間の需要は、時期的なものもあるが、低迷している。その上、風邪、インフルエンザなどで欠勤者が多いこともあって実働率が低下し、需要に追い付かない」との声が寄せられた。「消費増税に向けて消費動向の見極めが必要になるだろうと、運賃体系の検討も活発になるのではないかと。業界としてまとまっていけるかが鍵になるのでは」という。

### 【企業からのコメント】

- ★「冬物の商品在庫が増えている。今後売れる商品でもなく、対策が必要」
- ★今年度は大きな案件が見込めない。
- ★営業の1名増員が望ましい。
- ★新年を迎えたが、商談が入る量が営業マンによって差がある。
- ★消費増税も考えて値上げを検討中。難しいが、理解していただけるようにしたい。
- ★米中関係、日韓関係、英国の問題、どれをとっても良い方向には動いていない感じがする。

飯田の気温と降水量



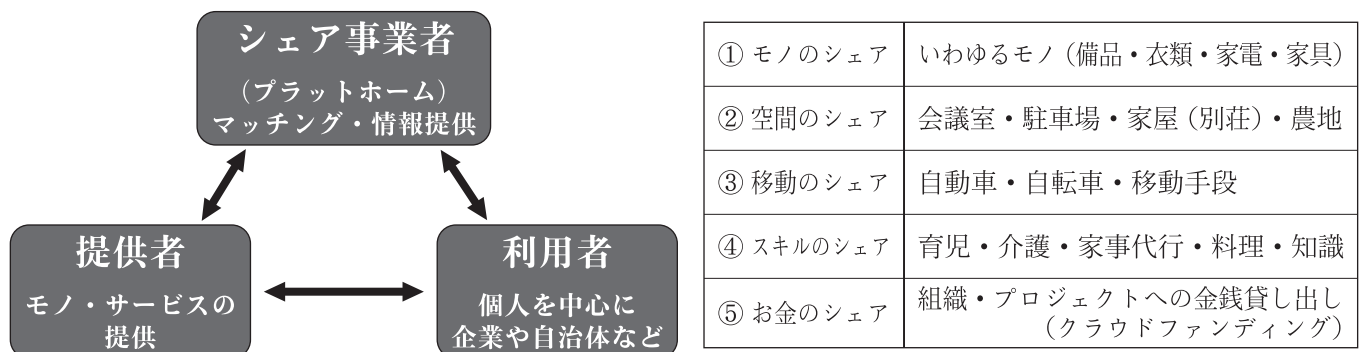
## シェアリングエコノミーの拡大

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課  
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

まだ馴染みは薄いですが、「シェアリングエコノミー」とか「シェアリングビジネス」という言葉を耳にする機会が多くなりました。シェアサイクル、カーシェア、ライドシェア、ホームシェア、駐車場シェア、民泊、フリーマーケットといった個人間（C to C）の取引が中心となりますが、モノや場所などの遊休資産を「提供する人」とそれを「利用したい人」をシェア事業者（プラットフォーム事業者）が媒介するという仕組みになっています。スマートフォンの普及で、いつでもどこでも手軽にサービスを利用できる環境が整ったことも若い人を中心に広がりを見せている理由です。

内閣官房シェアリングエコノミー促進室では、「シェアリングエコノミー」という言葉を、「個人等が保有する活用可能な資産等（スキルや時間等の無形のものを含む）をインターネット上のマッチングプラットフォームを介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動」と説明しています。

「シェアリングエコノミーの仕組み」と「5つの領域」



（一般社団法人 シェアリングエコノミー協会資料より）

### 所有から共有への経済活動

従来、経済の目的は「所有」であり、家や車のほか衣服、家具、家電など多様なモノや高価なモノを所有することが富の象徴でした。このことが個人消費を誘引して日本経済の発展に貢献してきました。

しかし、モノの無い時代や高度成長期を知らない若い世代を中心に、自家

用車を所有しない、あるいは所有しても自分にとって最低限必要な整備がされていれば良いという発想が生まれてきています。モノを買うことや消費に消極的で、モノを増やさない事が環境にも良いという考えから、必ずしも所有を求めない傾向へと価値観が変化してきたことが、シェアリングエコノミーを生み出した背景と考えられます。

平成30年版総務省情報通信白書では、シェアリングエコノミーの認知度について国別比較を示していますが、日本の場合、駐車場のシェアリングは他国に比べ高いものの、全体的には先進国に比べてまだ浸透している状況ではありません。

シェアリングサービスの認知度（国際比較）

（単位：％）

	駐車場のシェアリング	ライドシェア	民泊サービス	個人の家事等の仕事・労働のシェアサービス	個人所有のモノのシェアサービス	当てはまるものはない
日本 (n=1000)	24.2	15.6	32.9	8.5	10.5	57.2
アメリカ (n=1000)	15.1	50.8	35.1	15.4	9.7	34.7
ドイツ (n=1000)	18.2	47.4	33.6	7.2	13.2	38.0
イギリス (n=1000)	20.0	40.2	36.8	11.5	7.0	41.3

（出典）総務省「ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究」（平成30年）

## シェアビジネスのトラブル

シェアビジネスは、技術的進歩によって、貸し借りや売買が容易にできるという実態が先行して、従来の法規制が追いついていない現状もあります。「利用者が施設や備品を壊した」「施設の管理不足で利用者がケガをした」など提供者と利用者の双方が加害者になり得る可能性があり、シェア事業者が紹介責任を問われる可能性もあります。

右のグラフは、シェアリングサービスを利用する際に確保されているべきことを、提供者と利用者双方の立場に立ったとしてアンケート調査したのですが、借り手、貸し手ともに「サービス事業者による保証や介入の仕組みがあること」の回答が多かったように、シェアリングサービスの進展には提供者・利用者双方の保護が必要になります。

近時はその必要性に着目した保険会社が専用賠償責任保険を売り出したり、シェアリングエコノミー協会が「シェアリングエコノミー認証制度」を自主ルールとして設けたりと、双方を保護するための方策が徐々に整備されつつあります。

## シェアリングエコノミーの影響と将来

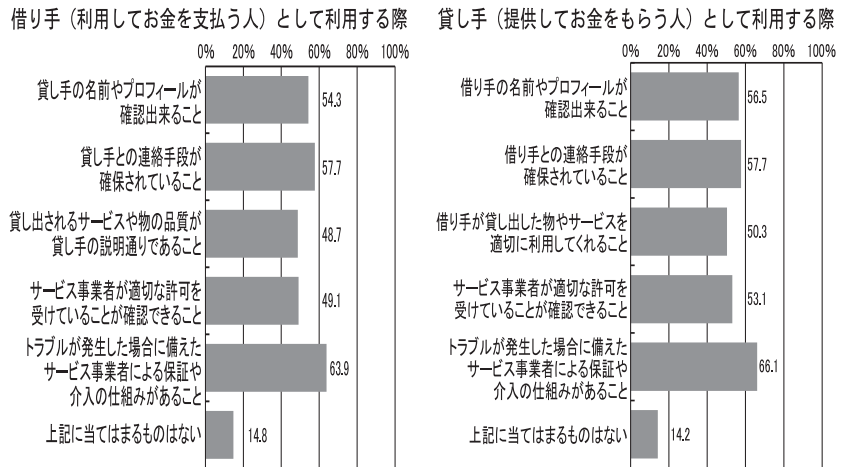
情報通信白書では、シェアリングエコノミーの国内市場規模が、右図のように増加すると予測しています。

シェアリングエコノミーに期待される事として、①2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催等に伴う訪日外国人の増加に対し、カーシェアや民泊などの利用が増加することが予想される、②企業で顕在化している人手不足を考えると、労働供給という面で、時間や場所に縛られないフリーランスのような働き方が増える、③地方の公共交通が途絶えた地域で、個人の移動手段が提供されれば交通弱者への救済が可能となる、④民泊が健全な形で拡大すれば、大都市での宿泊施設不足の解消につながる、⑤主婦の家事労働が軽減されれば、別のスキルを身につけることができる、といったことが考えられます。反面、シェアリングビジネスの進展による既存市場への負の影響も生じる可能性もあります。①個人間(C to C)の取引が多いため、数値的な影響はなかなか掴みにくく、国として個人間の取引で所得をどう把握して課税するか、②自動車・自転車メーカーや小売業、宿泊業、タクシー業界等への影響、といったことが考えられます。

シェアリングエコノミーは、個人間の取引ではあるものの、自己所有の資産やスキルを有効活用していく近隣同士の助け合いであり共助です。いま地方自治体は、人口減少や少子高齢化でさまざまな課題を抱えており、すべてを公共サービスで解決するには予算的にも人員的にも限りがあります。総務省では、全国の自治体に対して地域の課題を解決するシェアリングエコノミーを利用した実証実験をしています。地方の多くの課題をシェアリングサービスによって解決できる可能性があるのかもしれませんが、

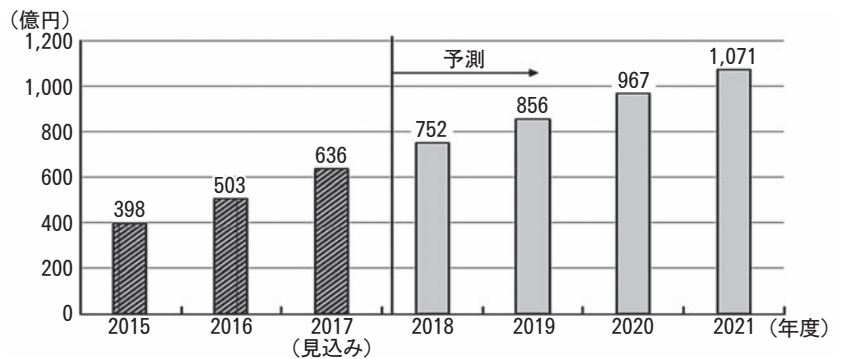
飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

シェアリングエコノミーを信頼して利用するための条件（複数回答）



(出典) 総務省「ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究」(平成30年)

シェアリングエコノミーの国内市場規模推移予測



※本調査におけるシェアリングエコノミーでは、音楽や映像のような著作物は共有物の対象としていない。また、市場規模は、サービス提供事業者のマッチング手数料や販売手数料、月会費、その他サービス収入などの売上ベースで算出している。

(出典) 榊矢野経済研究所「シェアリングエコノミー(共有経済)市場に関する調査(2017年)」(2017年11月25日 発表)

## リニア時代を迎える飯伊地域の資源（４）

### 赤石山脈（南アルプス）（１）

リニア時代を迎える飯伊地域の資源の新シリーズとして赤石山脈（南アルプス）を取り上げることとする。



荒川方面から望む赤石岳  
(撮影：赤羽目壮人)

#### 1. わが国で第一級の資源

資源としての赤石山脈（南アルプス）をみると、山高ければ尊い、というものではないが、理科年表（2019年度版）によると、3km超のピークが9座（北岳、<sup>あいの</sup>間ノ岳、仙丈ケ岳、<sup>のうとり</sup>農鳥岳、塩見岳、<sup>わるさわ</sup>悪沢岳、荒川中岳、赤石岳、聖岳）で、飛騨山脈（北アルプス）の10座に次ぐ。木曾山脈（中央アルプス）のピークは皆3km未満である。

登山家で作家の<sup>ふかだきゅうや</sup>深田久弥氏が日本中の山の中から選定した「日本百名山」では、南アルプスでは10座（甲斐駒ケ岳、鳳凰山、北岳、間ノ岳、仙丈ケ岳、塩見岳、悪沢岳、赤石岳、聖岳、<sup>てかり</sup>光岳）が選定されており、北アの15座に次ぐ。中央アは3座となっている。この深田久弥氏を慕う「深田クラブ」が百名山に加えて更に100の山を選定した「日本二百名山」には、4座（鋸岳、農鳥岳、<sup>かみこうち</sup>上河内岳、池口岳）が入っており、北アは11座、中央アは3座である。

「飯伊地域は有力な観光資源に乏しい」といわれているが、上記の通り南アルプスはわが国第一級の存在と違って間違いないだろう。

#### 2. 南アルプス北部 山梨県・静岡県からのルート

南アルプスに詳しくない方のために、その概要を述べる（次頁概略図参照）。概略図には主な登山口と登山道を記した。長野・山梨県境には、甲斐駒ケ岳（標高2,967m）、鋸岳（2,685m）があり山梨県北杜市側からのアプローチのほか、甲斐駒ケ岳は反対側同県南アルプス市<sup>ひろがわら</sup>広河原からのルートもある。同様に、鳳凰三山と呼ばれる地蔵岳（2,764m）、観音岳（2,841m）、薬師岳（2,780mm）も北杜・南アルプス両市からのアプローチが可能。

北岳（3,193m）と山梨・静岡県境の間ノ岳（3,190m）、農鳥岳（3,026m）は<sup>しらね</sup>白峰三山と称せられる。北岳は富士山に次ぐ日本第2位、間ノ岳は2014年国土地理院による再測定の結果、奥穂高岳と並ぶ日本第3位タイとなった。北岳から間ノ岳にかけての稜線の縦走では、ここが「天空の稜線」とも呼ばれているようである。この3座へは南アルプス市<sup>ひろがわら</sup>広河原、早川町の<sup>ならだ</sup>奈良田が登山口となっている。

甲斐駒ケ岳からの稜線の続きにある「南アルプスの女王」といわれる仙丈ケ岳（3,033m）は以上に記したピークとはやや離れた位置にあり、ガイドブックでは長野県側（北沢峠）からのアプローチがメインとして紹介されている。

#### 3. 南アルプス南部 飯伊地区からのアプローチも

概略図を見ると、伊那市が南アルプス観光に、駒ケ根市が中央アルプス観光に注力している理由が改めて判る。行政区域は大鹿村の北隣りは伊那市、駒ケ根市には南アルプスがないのである。またこれを見ると「飯田市の最高峰は聖岳」といわれていることも理解できる。

塩見岳（東峰3,052m）へは、大鹿村の鳥倉登山口（鳥倉林道ゲート）が起点となる。以前は同村鹿塩の塩川小屋からの登山ルートがあったが、登山道が崩落したため利用不可能となっている。三伏峠を經由して塩見岳や南の荒川三山などを目指すルートとなっている。

小河内岳（2,802m）と荒川三山（悪沢（東）岳3,141m）との間をリニア中央新幹線のトンネルが掘削され、大鹿村へと通じる。土被り1,400mといわれる難工事となる。静岡県側の非常口工事現場は亜高山帯に近いところである。

しらびそ峠に立ち寄ると、目前に兎岳（2,818m）、大沢岳（2,820m）が手に取るところに見え、しらびそ峠からの登山道が地図に記載されているが、崩落により利用できない状態である。

南アルプスの主峰赤石岳（3,120m）は、大鹿村大河原から小波川に沿って登る登山道が設定されているが、小波川の20回近い渡渉が必要で難易度が高く、静岡県側の榎島からの登山ルートがメインとなっている。

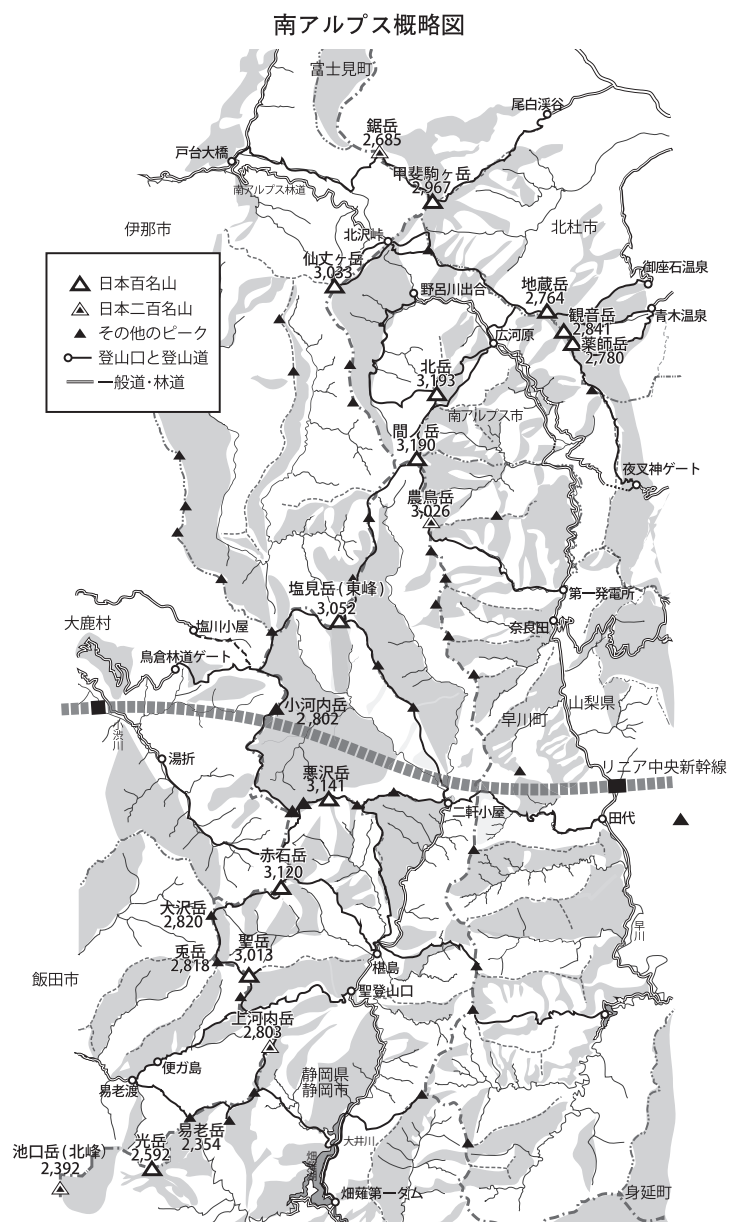
聖岳（3,013m）、上河内岳（2,803m）、光岳（2,592m）へは、飯田市南信濃の易老渡登山口から易老岳（2,354m）経由か、便ヶ島経由で稜線に出てそれぞれに向かうことになる。池口岳（北峰2,392m）への登山口も南信濃地区内の152号線沿いに案内板を見ることができる。

### 3. リニア開通を見据えると…

子供の頃から朝な夕なに南アルプスを見て育ち、南アルプスは当然に信州のものと思っていたが、現状は、南アルプスは山梨県であり、静岡県のものとなっているようだ。

しかしながら、これはこれまで都市部から飯伊地区の登山口までのアクセス時間が余りにかかりすぎていることが一因であり、リニア中央新幹線が開通すると、代表的登山口である広河原（山梨県）、榎島（静岡県）と飯伊地区の便ヶ島（南信濃）、鳥倉登山口（大鹿村）へのアクセス時間は、ほぼ同等かむしろ早まることもみることができる。

これまでの常識というか思い込みを捨てて南アルプスへの取組みを考えていくことができるのではないか。



(リニア対策課作成)

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)